

ゆいゆい通信

NO. 16
平成28年 3月号
NPO法人 癒居
加古川市尾上町養田 1436-5
(TEL: 079-490-4165)
<http://yui-2011.jimdo.com/>
E-mail: yui2011@honey.ocn.ne.jp

ホームホスピス癒居が開設して4年。この間、癒居で旅立たれた方は、15名です。入居して3日目で旅立たれた方もいれば、2年半以上ご一緒できた方もいらっしゃいます。残された時間がどれだけあるのか、誰もわかりませんが、私たちにできることは、利用者に寄り添い、何気ない会話の中で、これまでの人生を振り返り、やり残した事や元気なうちにしておきたいことを引き出し、実現できるようにサポートすることです。それはつまり、旅立ちの準備にもつながります。その過程で、私たちは、利用者から「生きざま」を、ご家族からは大切な人を見届ける「覚悟」を教わっています。

「利用者の想いに耳を傾けそれを尊重する」簡単なようで難しいことです。利用者の状況によっては、ご自身の想いを伝えることが困難な方もいらっしゃいます。そんな時は、ご家族から色々な情報を伺い、推察しケアをします。しかし、常にこれでよかったのかと自問自答を繰り返しています。介護の世界は「正解がない」とよく言われ、なかなか答え合わせがしにくいのですが、ご遺族からお声を掛けていただいたり、お手紙を頂戴すると救われたような気持ちになります。ケアには正解がないが「外れはある」ことを肝に銘じ、利用者の心の声に耳を傾けられるように1日1日を大切に過ごしたいと思います。

落合 利香



クリスマス・忘年会



奇跡の1か月半

お父様を看取られた家族様の声

私の父は、平成25年7月に直腸がんと診断されました。手術は受けずに自然にまかせるといふ、父自身の強い意志に従い、自宅で母と暮らしていました。平成27年の初め頃から、病状は進み、母による介護も限界でした。娘の私も夫が大病を患い、父の世話をする者がいなくなりました。父には介護施設と病院を行ったり来たりしてもらい、10月には病院の緩和ケア病棟に入院しました。その頃にはもう重湯しか食べられなくなり体力が低下。その病院の主治医が親身に相談にのってくださり「お父さんの性格だと寂しがりやなので、常に周りに人の気配がある家庭的な所で最期を過ごすのが一番幸せです。」とホームホスピス癒居をご紹介頂き、11月に入居させていただきました。

入居当日、父はスタッフの皆様の家庭的な雰囲気・南向きの庭の見える部屋をととても気に入り、ぐっすり眠れたみたいです。ある日、重湯しか食べていなかった父が突然「エビの天ぷらが食べたい」と言った時にはびっくりするやら、ほっとしたのを思い出します。それから「食事がおいしい」「おやつを買ってきて」と言うようになり、体力もついてきました。まさに奇跡が起こりました。

私にも「癒居さんに居たら安心なので、もう病院にいた時のように毎日来なくてもいいよ、主人の世話をしてあげなさい。」という父親らしい言葉をかけてくれました。思い出しては涙が出ます。

人間はひとりでは生きていけません。周りに支えてくださる人がいるから、元気に生きていけるのです。父は息を引き取る時、周りに私と信頼している癒居のスタッフが沢山寄り添って下さり、幸せだったと思います。私も父に対して癒居さんに入居する手助けが出来て、少しだけ最後に親孝行出来たかなという心境です。癒居の皆様、父も私も助けていただいて、本当にありがとうございました。

*ご家族から いただいたお手紙

拝啓

〇〇の候、癒居の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度は、亡母の介護に際して、温かいお世話をいただき、深く感謝いたしております。お陰を持ちまして、仕上げも無事に終えることが出来ました。今になって振り返ると、介護に疲れ、母にも辛く当たっていた頃、自身の腰痛も重なり、本当に心身ともに参っておりました。

ある施設では、いつ訪問しても勝手に動き回らない様、センターを首元と椅子に付けられ、立ち上がっただけですぐに職員に座らされている姿を見ました。孫ほどの若い男子にトイレに付添いされている姿を見るたびに、何も出来ない息子としての自分が情けなく、母に申し訳なく思い何度も涙が溢れました。

そんな時にご紹介いただいたのが癒居さんでした。癒居さんに入所してからは笑顔も始め、他の入所者を気に掛けたり、タオル類を畳むお手伝いをさせて頂いたり、お菓子作りをお手伝いしたりと、少し元気な姿を見ることも出来ました。家に連れ帰り、仏壇やお墓に手を合わせる事が出来ました。娘の二十歳の晴れ着姿を見せる事、孫三人の就職や内定の報告も出来ました。

ゆっくりと母親と過ごす貴重な時間が持てました。本当に有り難うございました。

告別式で申したのですが、私に出来る事は何でもしてあげようと思ひやってきました。その為か、後悔はありません。これからは天国で待つ、父や妹たちに任せたいと思います。皆様どうぞご愛ください。

敬具

新入職員の紹介

気軽に介護のご相談を！

昨年10月より新しく仲間入りさせて頂いた **小林 慶三** です。ホームホスピス癒居は終末期の新たな生活の場として第二の我が家のような環境で専門スタッフが24時間常駐し、最期まで寄り添い、穏やかな生活を送れるよう緩和ケアに努めています。癒居の居宅介護支援事業所では障がいを負っても年をとっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来る援助をめざし、入居者から地域住民へと対象を広げ介護相談援助を行いますので、今後共どうぞ宜しくお願い致します。



一日一日を大切に！

2016年のスタートと共に「癒居」のケアスタッフとしてお手伝いさせて頂くことになりました **島津 早苗** です。入居されている方々の何気に過ぎて行く日常に寄り添い、でも一日一日が大切なものになるようなお手伝いが出来ればと思っています。入居者の皆様お一人お一人とのご縁に感謝しながらも私も沢山学ばせていただきます。



利用者さんが窓辺で育てている蘭が今年も咲きました。5年目



ボランティアの美容師さんの美容院

手作りおやつ

ホームページリニューアル

ホームホスピス癒居を一人でも多くの方に知って頂きたくホームページを充実しましたのでどうぞご覧ください。

(<http://yui-2011.jimdo.com/>)



= 職員募集 =

癒居で 私たちと一緒に働きませんか！！

家事スタッフ・介護スタッフ募集中
利用者6名の方の身体介護・生活援助の支援です。
勤務日数・時間応相談 まずはお電話下さい。
電話 079-490-4165 (担当藤井まで)